

聖徳スタイル

vol.1

シリーズコンサートに行こう!

「一流のものに触れる・慣れ親しむ」。これが情操を豊かにし、新しい興味分野を拓けるなど“成長のために役立つ”ことは、誰もが賛成だと思います。けれども、普通の家庭生活・学校生活の中では、なかなか実現しないことも事実です。

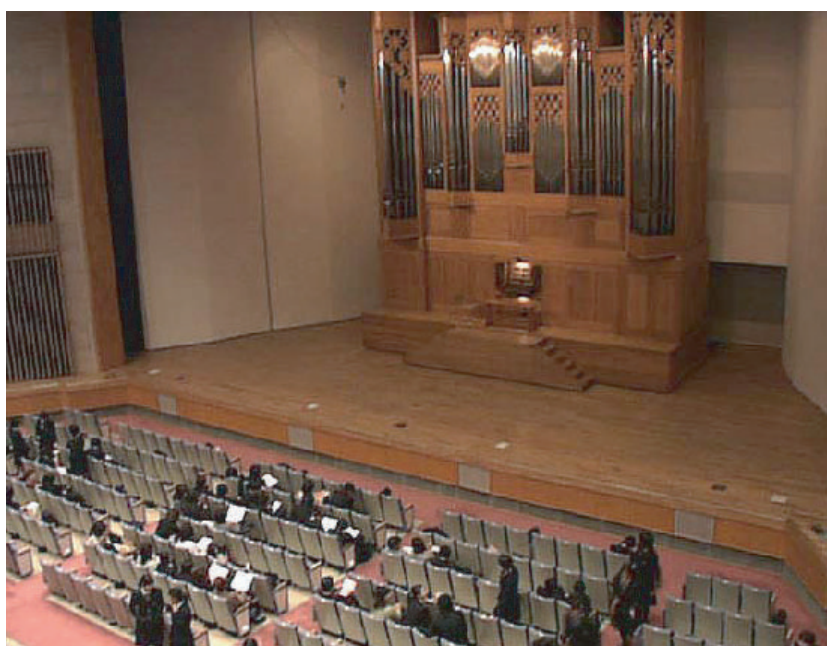
そこで聖徳では、「本物教育」の一貫として「シリーズコンサート」を実施しています。これは聖徳学園全体を対象として、聖徳大学川並香順記念講堂（1500席）に世界の一流の演奏家やオーケストラ、合唱団、ミュージカルや歌舞伎などを招聘して、その公演を鑑賞する催しです。

年間約50回が開催され、本校では音楽授業の一貫（必修）として年3回の鑑賞会を行うほか、それ以外の公演も希望すれば無料で鑑賞できます。

聖徳を知る人々や音楽関係者には有名な「シリーズコンサート」ですが、“入学後にはじめて知った”という方も多いため、今回は、その人気の秘密を探っていきます。

今年の1月には、パイプオルガンの鑑賞会が行われました。聖徳大学川並香順記念講堂には、世界初の移動式パイプオルガンが設置されており、毎年、新入生の歓迎（4月）と卒業生の歓送（1月）には、パイプオルガンの演奏が組まれています。

これから入学される方には、ぜひ楽しみにしてもらいたいと思います。



生徒たちに感想を聞いてみましょう。

「入学して初めてパイプオルガンの演奏を聴いたときには、迫力もあって、荘厳で、本当に驚きました」「パイプオルガンの演奏は聴いたことがなかったけど、すごく感動しました。これから入学する人には、きっと衝撃的。楽しみにしててください」「サントリーホールでもパイプオルガンを聴いたことがあるけれど、聖徳のホールの方がステージとの距離が近くて、演奏や操作も見えて、本当に素敵です」と、大好評です。



感想を聞かせてくれた生徒たち

シリーズコンサートの他の公演についても尋ねてみました。「オーケストラだけでなく、オペラやミュージカル、バレエや歌舞伎などいろいろなバリエーションがあるのでいつも楽しみにしています」「授業での鑑賞会のほかにも、個人で申し込んでいろんな公演を見ています。他のホールではチケットが取れないような有名な公演も間近で見られるのでお勧めです」「CDで聴くのと違って、生の演奏は、すごい迫力」「今まで知らなかったジャンルのもので、シリーズコンサートで見て好きになったものがたくさんあります」「音楽家になりたいのだけれど、これだけ素晴らしいお手本が見られて幸せです」などなど、書ききれないほどのたくさんの感想が出てきました。やはり、一流の公演には観る人を感動させる力があるのです。

このシリーズコンサートには保護者の方々も参加することができます。参加されたことのあるお母様方にもお話を伺いました。

「娘が入学してからこのシリーズコンサートのことを知ったのですが、とても迫力があって良かったですね」「私が特に印象に残っているのは『英国女王陛下の近衛軍楽隊』『レニングラード国立バレエ』『鬼太鼓座』です。もちろん、それ以外にも世界を代表する芸術の数々に触れられるというのは素晴らしい経験でした」「娘と共に鑑賞した作品は家庭での話題となり、感激もひとしおです」と、さまざまな評価をいただきました。「娘以上に、シリーズコンサートのファンです」という声もいただいています。

聖徳ならではのシリーズコンサート。皆さんも入学後、その魅力を生で味わってみてください。

プログラムの一例



モスクワ放送交響楽団
指揮：ウラディミール・フェドセエフ



マルセル・マルソー
(パントマイム)



リチャード・クレイダーマン
(ピアノ)



歌舞伎
「双蝶蝶典輪日記」